

平成21年4月30日現在

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2006～2009

課題番号：18300300

研究課題名（和文） 中国古代技術書の研究—王禎『農書』を中心として

研究課題名（英文） Study on the Chinese Classics on Engineering:
Particularly on the Book on Agriculture by Wang Zhen

研究代表者

田中 淡 (TANAKA TAN)

京都大学・人文科学研究所・教授

研究者番号：90000306

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：科学社会学・科学技術史

キーワード：農書、農業史、技術史、農具

1. 研究計画の概要

本研究は、元・王禎『農書』「農器図譜」の、現在望みうる最良の訳注をつくることを目的とする。王禎『農書』は農業に関する総合的技術書であり、「農桑通訣」「農器図譜」「穀譜」の三部からなる。本研究では、このうちとくに精華が集約された「農器図譜」を取り上げる。「農器図譜」は、農具や農業機械だけでなく、養蚕、紡績や田制、什器から、農業に関連する祭祀習俗、家屋、印刷術にまでいたる繁多な内容を、項目をたてて具体的内容を説明し、挿図を付している。このように、生活に関して多岐にわたる内容を記述する「農器図譜」を検討することにより、科学技術史分野のなかでは研究の立ち後れている、当時の生活科学技術への理解を深めることができるだけでなく、訳注として発表することで、関連する諸分野にとっても益するところが大きいと期待される。また既存の『農書』研究では、農具・農法に関する技術的説明の文章を訳出することが最大の目的とされてきたが、『農書』「農器図譜」の大きな特徴の一つである全体的論旨の結論としての詩文の解釈や、農具に対する機械工学的検討はほとんどなされてこなかった。本研究では特に、従来の研究に致命的に欠けているこれらの点を補うため、農業史、科学技術史の研究者のほか、中国文学、農業機械工学の専門家の協力を得て、訳注の検討をおこなう。

2. 研究の進捗状況

『農書』の訳注づくりのために、こみれまでおよそ以下の三点を中心におこなってきた。

(1)テキスト読解のための検討会の実施。人文研の正規の共同研究「伝統中国の生活空間」のほかに随時、王禎『農書』の会訳注定稿作成のために、関係の詩文・農業技術史・農学・機械工学・生活空間の専門家たち有志数名にのワーキンググループにおいて各章の仔細な内容の復元を含む詳細な検討を加えてきた。その結果、王禎『農書』はもともと非常に難解な記述がおおいことが知られていたが、こうしたまったく異なる専門領域の研究者たちの努力によって、たとえば排骨車、高翻水車、九連磨、などの難解極まりない農業機械のメカニズムそのものの核心にまで到達することができた。王禎『農書』は、ともと難解な専門的記述とそれに附せられた難解な王禎自身の作である詩文のために一種近寄り難い書物とみられていたのを私たちは始めて打破しつつある。機会メカニズムも含めて、王禎『農書』原文の真意をここまで解明できるようになったのは内外の学界を通じて、初めてのことであり、十分評価されてよいと自負する。目下比較的難解な篇を重点的に検討するように進めているために、や進捗が遅いのは否めないが、最終的には訳稿の順次刊行を目指している。

(2)農具に関する資料蒐集。この場合の資料とは、文献資料、フィールド調査による資料の両方を含む。現在、おおかた蒐集を終えている。ただ、将来、検討会で新たな問題点が発見されれば、それを補うべく、資料調査を再開する。をより強化して、正確かつ精度の高い訳注づくりを行っている。

3. 現在までの達成度

- ②おおむね順調に進展している。
(理由)

進捗の速度が想定をはるかに下回る点は今後の反省課題として残るが、それは農学・機械工学・生活空間史学などに特有の特殊専門性のしからしめるところであり、今後、一層この困難な仮題の克服に努めたい。すでにその問題点の克服のために、中国文学、詩文、生活空間、農業機具、家具などのまったく異質の専門分野のメンバーによる討論の過程で、その方向は明らかになりつつある。

4. 今後の研究の推進方策

検討会を重ねて王禎『農書』の難解かつ核心部分となる数篇の訳注をまず完成させる。また、訳注では現段階での理解水準を明確に示すべく、訳文そのものだけでなく、有益な注が必要である。そのために、以下の二つのことを行う。

- (1) 王禎『農書』の前と後の時代の農業関連の書籍について、読解を進める。とくに、王禎『農書』で難解かつ核心部分の篇に直接関連するところを重点的に読解する。
- (2) 現在までに実地調査で集めた文献的史料、および民間伝承資料を整理し、訳注に役立てる。
- (3) 農業技術史関係のすでに蒐集した農機具および生活什器の類の民俗学および生活科学・技術上野価値を整理分析する。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

- ① 田中 淡「黄泉の国の暮らしと住まい-明器陶屋の世界」、『中国古代の建築と暮らし-茂木計一郎コレクション』、愛知県陶磁資料館、2008年6月。
- ② 田中 淡「日本建築に探る古層」、『国立歴史民俗博物館国際シンポジウム2007日中比較建築文化史の構築-宮殿、寺廟、住宅-』、国立歴史民俗博物館、2009年3月。

[学会発表] (計2件)

- ① 田中 淡「中国建築的自律性と排他性」、国立台湾大学芸術史研究所、2008年1月。
- ② 田中 淡「総括」、歴博国際シンポジウム2008「東アジア建築比較文化史の構築」、国立歴史民俗博物館2008年12月>

[図書] (計2件)

- ① 『中国古代の建築と暮らし-茂木計一郎コレクション』、愛知県陶磁資料館、2008年6月。

- ② 『国立歴史民俗博物館国際シンポジウム2007日中比較建築文化史の構築-宮殿、寺廟、住宅-』、国立歴史民俗博物館、2009年3月。

[その他]

- 1) 田中 淡「Characterstics of the Chinese Architecture through Ages(中国建築の特質)」(英語による)、ハイデルベルク大学芸術史研究所(集中講義)、2008年5月-6月。
- 2) 田中 淡「中国建築の伝統」、東京大学大学院工学系研究科(集中講義)、2008年11月-2009年1月。